

塩飽史談会だより

創刊号

会報発刊に寄せて

塩飽史談会 会長 入江幸一



現在進行中の塩飽史年表編集委員会のメンバーも、この機会に、情報交換の場として、会報を発行しようと考えている。これまでの年表作成は、年表の作成にあたり、多くの関係者から、貴重な資料や情報を提供いただき、年表の作成が、今年度の秋の例会に、ついに完了した。この機会に、年表の完成を報告し、今後の活動について、お話ししたい。

塩飽史年表の完成は、塩飽史談会の発展に大きく貢献した。この機会に、年表の完成を報告し、今後の活動について、お話ししたい。塩飽史年表の完成は、塩飽史談会の発展に大きく貢献した。この機会に、年表の完成を報告し、今後の活動について、お話ししたい。

秋の研修・会計報告

(平成21年11月8日)

【参加者】 32名

(内訳) 会員22 歴民3 城石会3
本島2 多度津2

【会費】 2,500円

但し 多度津は 1,500円

【会計】

(収入) 78,000円

<内訳> 2500×30=75000

1500×2=3000

(支出) 101,762円

(差引) ▲23,762円

※本会計研修費より補填



(旭丸で一路高見島へ)



(佐柳島干満の井戸)

昭 和	平 成	昭 和	平 成	春 の 研 修	現 地 研 修	各 島 訪 問	県 内 各 地 塩 飽 関 係 資 料 館 社 寺 等	各 島 再 訪	会 員 数 16 名
62	(1987)	6月	発足	行事	年2回・会費2千円	春一総会・研修会・懇親会	秋一現地研修会	会長 藤井致一	
11	(1999)	6月		会長 入江幸一					
14	(2002)	11月		塩飽文庫設置(塩飽勤番所内)	藤井家・東山家文書等	閲覧可(勤番所開館時)	寄贈受付中		
19	(2007)	10月	(史談会20周年)	塩飽史年表作成開始					
21	(2009)	11月	高見島・佐柳島訪問	塩飽各島再訪問開始					
22	(2010)	年表完成予定	咸臨丸渡米150周年	会報「塩飽史談会だより」創刊					

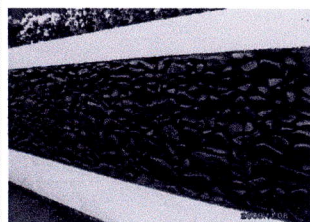
塩飽史談会の歩み

海見下ろす島のみ寺の墓地の中咸臨丸船員の墓一つあり

朝田みつる

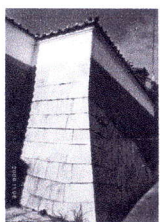
秋の現地研修 —高見島・佐柳島—

石垣・石壁に見える島人の豊かな感性 遠藤 亮



このように、石積みは島内各所で見られ、地元の石を巧みに取り入れ、単なる実用にとどまらず、美しさや高さを求めた島人の感性の豊かさに感服しきりであった。

の「打込み接ぎ」は、下部を花崗岩の安山岩の円礫を3段重ね、上部を黒い石のコントラストが美しい。この感覚を写真に引き継いだものが「写真E」へと発展する。



【写真D】 ↓ 佐柳島 本浦集落

「切り込み接ぎ」の家の石台は、花崗岩の接ぎ面を隙間なく合わせ、下2段を半円形に上部は1段で布敷きで押さえている。見事な石工法である。この「切り込み接ぎ」の手法は現代に見事に生かされたのが【写真C】である。



【写真B】 ↓ 佐柳島 本浦集落

「野面積み」の石垣である。島に産する花崗岩と安山岩の円礫を約2段に積み上げたもので、僅かな曲面が安定感を与えている。

【写真A】 ↑ 高見島 浦集落

高見島・佐柳島の見学で注目したのは丹精込めて積み上げた石積みである。平坦地の少ない島で暮らす人たちがとって傾斜地との苦闘の歴史があつたと思われる。家屋・畑地には土留を設け、丹精込めて突き上げた石垣には島の歴史そのものが刻まれていて、正しい美しさを醸し出しているのである。

高見島・佐柳島の歴史を尋ねて・・・参加者の声

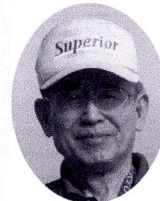


多度津町
西山市朗

風もなく、波静かでない上、この上ない天候に恵まれた一日でした。8時定刻に坂出港を出発した観光船旭丸は塩飽を駆け巡り、秋の研修に参加する会員を乗せ目的地の高見島・佐柳島を訪問しました。塩飽史談会としては15年ぶりの両島訪問でした。茶粥を食べる島、両墓制の島として知られている高見島・佐柳島ですが、水夫（かこ）の島また塩飽大工の島と、漁業を主な生業としてきた島との違いがあります。特に江戸時代（中期以降）から高見島と佐柳島の人口が逆転するという佐柳島の人口増が見られました（墓地にもその様子が見られる）が、現在は両島とも猫の多さが目立つ過疎の島となっています。

高見島では、90歳になる入江会長さんはじめ32名の方々が、胸突きの坂道を上下して浦集落の家並みを巡り、江戸前期の島の人々が汗水流して生きた生命力の強さが感じられる石積みを肌を感じながら島の歴史をたずねて歩きました。

佐柳島では、ふるさと会の島田様をはじめ、皆様の協力・歓迎をいただき八幡宮・干満の井戸・庄屋宅（伊能忠敬が宿泊した）・乗蓮寺・長崎の埋め墓などを見学することができました。



坂出市
細川勝信

朝八時坂出港を出発。高見島・佐柳島・本島・丸亀港と高見島に入港した。十時半には高見島ガイド役の西山半島夫妻ら四人が待って下さり、高見島独特の砂浜埋め墓などを案内いただいた。高見島独特の砂浜埋め墓などを案内いただいた。高見島独特の砂浜埋め墓などを案内いただいた。

高見島は山島で、平地がなく、斜面に集落を営み、水が手にも苦勞した歴史が、古くから各港に巡る回船業に乗り出した。市は、行政区画によって一町二島に分割されている。塩飽諸島は、もととも人名という特別な自治体であった。何とか塩飽としての歴史年表をとまて後世に伝えたい。九人の編集委員が一年より一月一回の割合で鋭意編集。春には完成の予定。

編集後記

会報がやるとなると、日中目をつたえ、交流の場や提供に役立ちたい。諸兄のお力添えを紙面に作りたい。陽春の好季節、一層の自愛を祈ります。



塩飽史年表 編集委員会